

スイカのカルテック栽培

(10アール当り)

時期	方法	資材
本畑の地力作り	なるべく早めに全面に投入して、耕耘します (土壌全体に肥料分が行き渡るように)	ラクトパチルス 600g … 保水性よく、深く根が伸びやすい土を作ります。 堆厩肥 1トン (～2トン。有機物がなければ米ヌカ150kg以上) ※堆厩肥の量が少ない場合は複合肥料を施して下さい(各成分12kg)。 硫安 60kg (もし複合肥料ならN成分:12kg程度) … (追肥をする場合) ※チッソは有機化し、緩効的に効きます。チッソを増やした場合にも、植付け時には土壌EC:0.2以下に下りますから、トンネル・マルチ栽培など、 追肥をしない(少ない)場合は、硫安100kg(N:20kg) を施します。 ※カルテック栽培では原則的に、土壌全層・均一に堆厩肥や肥料分を混ぜ込んで、局所施用や待ち肥のような肥料ムラ・生長のムラを無くします。このため肥料が薄まりますので、 硫安100kg で少追肥を推奨します。
本畑の整地時	整地・ウネ作り時に全面散布 (畑土全面またはウネの全面に、均等に散布し、なるべく土に混ぜます。)	畑のカルシウム (または カルテックCa粒状) 60kg ※土壌が特に高pH・高ECの場合は、 カルテックCa粒状 を使います。 ※チッソ多肥の場合は、カルシウムも 80～100kg と、多くします。 ※カルシウムは開花・着果・果実品質を決定しますので、多めにして下さい。 ※もし特に心配な畑で農薬の土壌消毒をした場合は、毒性が抜けた後に米ヌカ等に混ぜて、 ラクトパチルス を補ってください。(同時施用可能)
育苗	床土(培土)	培土に 畑のカルシウム 3%ほどを混和しておくか、1ポット当り20グラム程を置き肥すると、徒長せずガッシリ充実した苗ができます。
	散水時に散布 (葉面散布・灌水)	濃縮酵素液(500倍) … 根を強く動かし、導管を強くし、生長を促進 カルテックCa液状(500倍) … 茎葉を厚く充実させ、健全な体質を作ります ※台木の鉢上げ(移植)後、穂木の発芽後に(必ず両方同時に)、 酵素液・Ca液 を各1000倍、4日間隔で順次散布すると、茎が太く充実し、接木が楽になります。 ※接木4日後から4～5日間隔で、最初だけ1000倍、以後500倍で 交互に 、葉上からタツプリ散布します。(ただし苗の状態によっては適宜どちらかを散布して下さい。) 根と導管が強く、厚く充実した苗を作ります。 ※定植4日前には、苗の仕上げに、 Ca液状 を散布して充実させます。
定植時	苗のドブ漬け・定植前後の灌水 ※以降は状態により適宜繰返し	濃縮酵素液 2～5リットル灌水 (希釈倍率は500倍程度で適宜) ※活着・深層への根張り促進。(N成分少なく、上根でなく深い根を張らせる) ※ネコブ線虫・ツル害虫・萎凋病の解消。茎の地際も強化され、ツル枯れも軽減。 (定植前後の灌水で タツプリ と深く湿らせ、その後、初期は灌水回数(は少なめに) ※生長を促進し、ツル先を持ち上げ、シオレを防ぐには、7～15日間隔で 葉面散布
開花・着果前	着果前のカルシウム ※以降も繰返し	カルテックCa液状 500倍 葉面散布 、または 2リットル灌水 ※親ツルの5～6節目から各節に雄花が着き、6～7節目以降数節(5～10節)ごとに雌花が着きます。もしも雌花が着かない、または落花するほど軟弱な場合や、雄花が少なく雌花の先のツルが長く強すぎ、節間が長いチッソ過多の場合は、急いでカルシウムを与えて、健全な体質に戻します。(原則として追肥不要) ※ 着果させたい節位(18節)の開花前(前節の開花期)には、必ずカルシウム を与えて、着果と果実形成を促します。(良いスイカを作る基本)
果実肥大期	着果後～ ※以降、半月間隔	濃縮酵素液 500倍 葉面散布 、または 2リットル灌水 ※ 着果後ただちに (ピンポン玉大までに)、果実の初期肥大と草勢維持・萎凋予防。
追肥★	果実が茶碗大の頃、N・Ca同時施用 (混ぜて時間をおかない)	硫安 20kg または アミノ酸液 10リットル灌水を半月間隔2～3回 畑のカルシウム(またはカルテックCa粒状) 20kg (多雨の時はトンネル外にも)
仕上げ	収穫10～7日前	カルテックCa液状 500倍 葉面散布 …糖度・旨味の増加

酵素液・Ca液状で草勢を調節し、2番果・3番果も同様に行います。★追肥はツル先より遠くに散布



収穫期にはしっかりと甘く、シャリシャリ感のあるスイカ



徒長をさせないので、ツルぼけせず強い花を咲